

○ベグタミン錠-A 配合錠 ・ ◎B 配合錠 [内] <販売中止>

【重要度】 【一般製剤名】 クロルプロマジン塩酸塩/プロメタジン塩酸塩/フェノバルビタール chlorpromazine hydrochloride /promethazine hydrochloride/phenobarbital 【分類】 精神神経用剤

【単位】 ○A 配合錠, ◎B 配合錠

【常用量】 ■鎮静：3～4 錠/日 ■催眠：1～2 錠/日

【用法】 ■鎮静：分割投与 ■催眠：寝る前

【透析患者への投与方法】 3成分のうちフェノバルビタールは透析患者には過量になり気味であるためやや減量する (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 $C_{cr} \geq 10 \text{ mL/min}$ 以上：減量の必要なし, $C_{cr} < 10 \text{ mL/min}$: やや減量して開始 (5)

【特徴】 A 錠 1 錠中, クロルプロマジン 25mg, プロメタジン 12.5mg、フェノバルビタール 40mg 含有. B 錠 1 錠中, クロルプロマジン 12.5mg, プロメタジン 12.5mg, フェノバルビタール 30mg 含有. 3成分はいずれも中枢抑制作用を有し, クロルプロマジンとフェノバルビタールは鎮静作用において相乗的に, クロルプロマジンとプロメタジンとはカタレプシー惹起作用において拮抗的に作用する.

【主な副作用・毒性】 悪性症候群, 突然死, 血圧降下, QT 延長等心電図異常, 再生不良性貧血, 溶血性貧血, 血小板減少, 麻痺性イレウス, 遅発性ジスキネジア, SIADH, SJS, TEN, SLE 様症状, 角膜・水晶体の混濁, 呼吸抑制, 肝機能障害, 黄疸, 遅延性の重篤な過敏症状など

【代謝】 プロメタジンは CYP2D6 によって代謝 (水酸化) される (9)

【排泄】 未変化体尿中排泄率 40～50% [フェノバルビタール] (15)

【 $t_{1/2}$] 20hr [フェノバルビタール] (15)

【蛋白結合率】 クロルプロマジン 95～98%, フェノバルビタール 20～50%, プロメタジン 62～93% (1)

【透析性】 フェノバルビタールのみ除去される (5)

【TDM のポイント】 フェノバルビタールは TDM の対象となるが治療目的に注意. 有効治療域 15～40 $\mu\text{g/mL}$ (1)

【相互作用】 ポリコナゾール, タダラフィル, リルピピリンと併用禁忌 (1)

【更新日】 20180403

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。